

## 令和4年度 第1回大野城市防災会議 会議録

1. 日 時 令和4年10月4日（火）14時00分～14時35分
2. 場 所 大野城まどかぴあ 1階 多目的ホール
3. 出席者 会長  
副会長  
委員22名、代理出席4名  
事務局5名  
計33名  
※欠席4名
4. 傍聴人 無し
5. 審議事項
  - ・大野城市地域防災計画（修正案）について
6. 報告事項
  - ・今後のスケジュールについて
7. 資 料
  - （資料1）大野城市防災会議委員名簿
  - （資料2－1）大野城市地域防災計画修正の概要
  - （資料2－2）大野城市災害対策本部組織図、事務分掌
  - （資料3）大野城市地域防災計画（風水害対策編）
  - （資料4）大野城市地域防災計画（風水害対策編）新旧対照表
  - （資料5）大野城市地域防災計画（震災対策編）新旧対照表
  - （資料6）大野城市地域防災計画（原子力災害等対策編）新旧対照表

## 8. 会議の概要

### ①辞令交付

8・9・10号委員への辞令交付。

### ②市長挨拶

(井本市長)

井本市長よりあいさつ

### ③会長就任及び会議の成立・公開

(事務局)

大野城市防災会議条例第3条第2項及び第3項の規定に基づき、当該会議の会長を市長とする旨説明。

### ◇会議の成立について

(事務局)

過半数の委員が出席しているため、「大野城市防災会議運営規程」第2条第3項の規程に基づき、本会議は成立したことを報告。

### ◇会議の公開について

(井本会長)

・「大野城市審議会等の設置及び運用に関する指針」に基づき、審議会等の会議は原則として公開すること。

・非公開で協議すべき事項が発生した場合には、改めて委員へ諮ること。

(委員)

了承。

※傍聴人無し

#### ④審議事項「大野城市地域防災計画（修正案）について」

以下について、資料2～6に基づき、事務局から説明。

#### ◇説明

（事務局）

#### 【資料2－1：大野城市地域防災計画修正の概要】

全編共通の内容としては、大野城市災害対策本部の組織変更に伴うものが主な修正箇所であり、その他、文言の適正化を行った。

なお、今年度は、現時点で福岡県地域防災計画の修正等を行われていないが、今後、県計画が修正され次第、速やかに本市地域防災計画の修正を行う。

#### 【資料2－2：大野城市災害対策本部組織図、事務分掌】

組織変更について、説明。

##### ・1 ページ目

本部総括部は、昨年度までの災対総務部を本部総括部と総務対策部に分割し、本部長、副本部長との円滑な連絡調整のため、秘書室を編入した。

総務対策部は、市民等からの電話受付や人事配置を担当する総務班を新設した。

広報報道部は、以前の総務広報部から、業務内容が明瞭かつ簡潔に分かる広報報道部に名称の変更を行った。

環境経済対策部は、機構改革に伴い新設した部であり、商工会や農協等との連絡調整や、中小企業への融資などの支援を担当する産業班を新設した。

避難対策部は、避難所の設置・運営に関わっていた避難対策部と地域対策部の連携強化を図るため、統合した。また、各地域行政センターや、各区との連絡調整を担う地域対策班を編入した。

市民対策部は、機構改革に伴い新設した部であり、行方不明者名簿の作成や安否情報に関する業務等を担う市民支援班を新設した。また、輸送・調査班を編入した。

福祉医療対策部は、以前の市民福祉対策部から、業務内容が明瞭かつ簡潔に分かる福祉医療対策部に名称の変更を行った。

議会対策部は、議会との円滑な連絡調整のため、新設した。

- ・ 2、3 ページ目

各部各班の災害対応業務について、事務分掌を示した。

### 【資料 3：大野城市地域防災計画（風水害対策編）】

### 【資料 4：大野城市地域防災計画（風水害対策編）新旧対照表】

修正素案の修正内容のうち、大野城市災害対策本部の組織変更に伴うものについては、資料 2-2 の組織図、事務分掌表に基づき修正を行った。本編での修正箇所については、説明を割愛し、その他修正点を説明する。

## 第 1 章

- ・ 総則 5～6 ページ

気候、人口などの時点修正を行った。

- ・ 総則 22 ページ

九州電力送配電株式会社において、事業所名の変更に伴い修正を行った。

## 第 3 章

- ・ 応急 15 ページ

「洪水に係る浸水想定区域」について、令和 4 年 5 月に、福岡県が、水防法に基づき、牛頸川の洪水浸水想定区域を設定したことに伴い、修正を行った。牛頸川については、計画規模の雨量での氾濫は想定していないが、想定最大規模の雨量では氾濫が想定されるため、追記した。

- ・ 応急 36 ページ

住家の被害程度の認定の基準について、災害救助法の現行制度に合わせ、修正を行った。

- ・ 応急 89 ページ

ガス施設の災害応急対策について、対策本部名の修正を行った。

## 第 4 章

- ・ 復旧復興 7 ページ

り災証明の範囲について、現行制度に合わせて修正を行った。

- ・ 復旧復興 8 ページ

被災者台帳の記載事項について、字句を適正化した。

なお、風水害対策編の修正事項の参考として、資料 4 に風水害対策編の新旧

対照表を示した。

**【資料5：大野城市地域防災計画（震災対策編）新旧対照表】**

**【資料6：大野城市地域防災計画（原子力災害等対策編）新旧対照表】**

震災対策編と原子力災害等対策編については、大野城市災害対策本部の組織変更に伴うものが主な修正箇所であり、風水害対策編の修正箇所とほぼ同じであることから、資料5及び6にそれぞれ新旧対照表のみを配布し、説明は割愛する。

◇質疑・応答

(委員)

- ・風水害対策編 第2章（予防2ページ目）

自主防災組織による防災力の強化において、『女性が力を発揮しやすい組織づくりの促進』とあるが、どのような目的としているのか。

(事務局)

災害においては、多様な性に配慮する必要があることから、多様な性の視点を取り入れることを目的として記載している。『女性が力を発揮しやすい組織づくりの促進』として、防災会議における女性委員の割合を上げ意見を取り入れる、避難所に派遣する男性・女性職員のバランスに配慮する等の取組を行っている。

(委員)

ボランティアグループの取り組みで、避難所運営ゲーム（HUG）に何度か参加したことがある。運営の難しさを体験できるゲームなので、このようなゲームを利用しながら、避難所において様々な配慮が必要となることを考えていただきたい。

(事務局)

HUGについては、出前講座や、市内小中学校教職員対象の防災教育コーディネーター研修、市職員対象の防災マスター育成プログラムにおいて実施している。また、今年度は、防災教育コーディネーター研修を受けた教職員から、研修を受けていない教職員に向けてHUGを実施してほしいとの要望があったため、要望のあった学校の教職員を対象にHUGを別途実施した。

今後も、引き続き出前講座や研修をとおして避難所運営ゲーム等を実施し、普及・啓発に努める。

(委員)

・風水害対策編 第2章(予防26ページ目)

避難行動要支援者の安全確保体制の整備について、毎年度、災害時避難行動用支援者支援計画届出書兼情報提供同意書を対象者に送付していると思うが、提出率はどのくらいか。

(事務局)

例年、6～7割の提出率となっている。今後も、提出率の上昇に向けて、普及啓発に取り組んでいく。

(井本会長)

事務局が提案した修正素案で、福岡県との事前協議を進めてよろしいか。

◇異議 無し

(井本会長)

事務局が提案した修正素案で進めることとする。

⑤その他

【今後のスケジュールについて】

本日、審議いただいた「大野城市地域防災計画(修正素案)」については、福岡県と事前協議し、修正を行う。修正後の計画素案に資料編を加えたものを、次回の防災会議において委員に審議いただき、今回の修正を決定とする。

なお、次回の防災会議は現在のところ来年2月中旬ごろを予定しており、本市の防災への取組みについても併せて報告する。

9. 閉会

これをもって、令和4年度第1回大野城市防災会議を閉会とする。